

ほとほとに

えねるぎっしゅ

Vol. **9**
 2004. 4. 25

・2004年3月13・14日 運営委員の学習会を東京で、3月26・27日は青森県六ヶ所村の核燃料サイクル施設見学会に参加しました。参加者からの報告です。

「エネルギー問題に取り組む先輩 NPO 法人に聴く」

あすかエネルギーフォーラムが、NPO法人となって初めての勉強会を2004年3月13日新宿区四谷の主婦会館プラザエフにて開催しました。講師は、私たちと同じエネルギー問題についての活動を行っているNPO法人日本の将来を考える会（IOJ）理事長宮健三さんと企画運営委員の青野千晶さんをお願いし、IOJの活動についてお話をお聞きました。

IOJは大学・研究機関の研究者が中心となって、知力を向上させ、エネルギー問題、国際問題について議論し、それを民意とし政府や社会に提言することを目指して設立されました。

具体的な活動としては、IOJのメンバーが講師となり、若い世代の科学的見識と知力向上を目指したエネルギーと環境問題の講座、英単語を効率的に覚える講座を開催しています。現在の会員数は1600人ですが、これをもっと増やしていき、5000人になったときに民意を反映させることができる。

あすかEF 野口博子

公開意見書を出していく、さらに発言力を高めるためには、会員数を10万人にまで増やしていきたいと、長期的な展望をもって活動されています。また、今後は他の団体と連携して活動を行ってきたいということでした。

工学博士（原子力工学・核融合）である宮先生は、特に原子力発電をめぐっては、マスコミをはじめ常識がないので、「常識」の確立をしたいと話されました。あすかエネルギーフォーラムは、エネルギーの専門家でない消費者同士が、疑問点、不安な点について話し、それを電力会社等とコミュニケーションをとりながら、正しい知識を身につけていくことを目指すので、アプローチは違いますが、目的は共通するよう思いました。

「物事を遂行するときは、簡潔性を高くすると、問題点が見えてくる」との言葉を肝に銘じて、今後の活動を行っていききたいと思います。

「TEPCO暮らしのラボ」へ行ってきました。

3月14日は銀座にある東京電力の家電製品の情報提供施設へ。最新の製品も複数展示してあり実際に使用することもできます。「目からうろこ」の新情報や「本当はどうなの？」と思っていた疑問解消情報がリーフレットで用意されていました。全国各地にこういう施設ができるといいな、と思いました。（あすかEF理事 川西 則子）



200V IH クッキングヒーターの威力に興味津々。1F スタジオの料理教室も大人気とか。（申込制です。）



炎が無いので油を熱している鍋に紙タオルをかけて油はねを防ぐこともOK。表面を触っても熱くありません。



IH クッキングヒーターは勘ではなく数値で管理する調理器具。ベテラン主婦は「火」の観念を入れ替えないと使いにくいかも。



2階の家電情報スペースでは実際に家電各社の製品の使い勝手を確認することもできます。自分のライフスタイルに適した製品を納得して選べそう！



IH クッキングヒーターは勘ではなく数値で管理する調理器具。ベテラン主婦は「火」の観念を入れ替えないと使いにくいかも。

3月27日、古牧温泉会議室においてジャーナリストの新井光雄先生をお迎えしての講演会が開催された。テーマは「緊迫するエネルギー事情」。会場には前日、六ヶ所村の核燃料サイクル施設見学を終えた70名が参加。“朝9時からの講演は初めて”との先生の一言に会場は笑いに包まれリラックスモードに。

海外生活も長く欧州視察から帰国されたばかりの先生はドイツやスウェーデンなど欧州の複雑な電力事情や実情を紹介、国内ではエネルギー資源の8割を輸入に頼る日本が選択した原子力が国の基幹電源として位置づけられているものの、電力自由化の流れが進む中、推進力を失い停滞している現実を厳しく指摘された。

また東電の一連の不祥事についても言及され、データの改ざんや隠ぺいは決して許されるものではないが、国や企業の体制、体質のありかたについて、そして欧米諸国や韓国でも導入している維持基準が無い日本では炉心構造の僅かのひびや傷も許されず、常に新品同様を求められてきた不合理さも指摘された。

良質な電気の安定供給は誰しも願う事、私たちも直面するエネルギー問題から目を離すこと無く、まず、自由化で暮らしはどう変わるのか、メリット、デメリットをしっかりと学ぶ必要があると



初体験？午前9時から講義する(財)地球産業文化研究所理事・総合資源エネルギー調査会石油分科会審議委員

新井 光雄氏

[元読売新聞論説委員。著書「電気が消える日」はカリフォルニア電力危機を予見し高い評価を受けた。大正大学で教鞭もとっている。]



3月26日(金)青森県六ヶ所村「六ヶ所原燃PRセンター」で再処理システムの概要説明の後、サイクル施設を見学しました。

今までは電力に関しては家での節電に心がけるくらい、原発に関しては友人が見学に行くのを聞いて「危なくはないのかな？放射能に汚染されるのでは？」などと口には出さずとも心配していました。施設があるところは誘致に関していろいろ問題や事情があると思っていましたし、なんと言っても消費しているのは首都圏に住む自分たちであることはわかっていたのですがなんとなく学習する機会もなかったので触れずにおりました。今まで新聞やテレビでのニュースを通して原発は人的事故の危険のかたまりのように思っていました。東海村の臨界事故の時は 米国の友人から電話があり、まるでチェルノブイリの事故のように心配した友人は(米国で報道された時、小さい日本地図上では茨城も私の住んでいる埼玉もほとんど同地区に見えたそうです)家族で一時米国に避難するように勧められたものです。

原発は必要悪のように思っていたのです。なにしろ私の時代は教科書に山と雲の絵のある水力発電や火力発電の時代ですから… 今回見学して、本州のはずれにこんなに大きな近代的施設があることに驚きました。お金も沢山かかっているそうだし、やはり見た目はこわそうでした。原燃PRセンターでお話を聞くに連れその必要性和安全への真摯な努力が感じられました。質問にもきちんとしっかり答えていただき信頼できると実感しました。二日目の講演会でもいかに自分が本当のことを知らなかったか気付かされました。見学を終えて原子力発電は限りある地球で暮らし・生きて行くことに必要な電力であること。そして環境にもむしろやさしく、使い捨てではなくウラン燃料のサイクルユーズに取り組んでいることを知りました。情報を多角的に見ることも学び、まず家族から伝えていきたいと思いました。



あすかEF今後の活動予定

その1：会員向け勉強会

5月25日(火)東京ガスの地域供給システムを見学した後、東京都中央区堀留町区民館に移動し原子力発電の「火入れ」にも立ち会われた日立製作所特別顧問 加藤陽明博士に発電ハードを支える立場からのお話を伺います。募集定員：20名・参加費は無料。

その2：エネルギートークサロン in はまおか(仮称)7月に初めて静岡県で開催いたします。浜岡のお近くの方、大募集!

その1・2とも詳細は確定次第メールでお知らせいたします。ぜひメールアドレスをお知らせ下さい。